

語り手 大原寿美子さん  
(明治40年生まれ)

平成元年8月24日収録

あらすじ

昔。高山に、おりゅうという器量のよい娘がおり、高山を越えた大きな家に女中に行っていた。

高山の尾根に大きな柳があり、柳の精がおりゅうに惚れて人間に化け、毎晩会いに行く。おりゅうもまた柳に会いに行くなどして、心を交わしあっていた。

年がたち、おりゅうが高山の峠を越え家に帰っていても、お互い毎晩会いに行っていた。事情があって行けないときには、大きな風が吹いて柳のざわめきの声や音やらが聞こえたり、木の葉が

### おりゅうと柳

(八頭郡智頭町波多)



イラスト・福本隆男

## 三十三間堂棟木の柳

めて、生きて顔じゃあな木は、杉でもヒノキでもない」「うん、毎晩会って来たけど、もう会えんか」「知らん」

「どんなこっちゃろう人の杉(＝きこり)ではどうにもいけない。あっちからもこっちか」とおりゅうも思った。

ある晩、いい男の侍が、そのころ、京の三十三間堂の普請が始まっていた。青ざめておりゅうのこゝろへ来た。「ひどろ青ざた。その三十三間堂の棟木としてのきぎりで一日中

柳を挽き伐ったけれど、とても柳が伐り倒せない、高山のあの柳でもないのだから「明日の仕事じゃ」と言っただけで、行とした。すると樹齢何百

は元通りになっている。いかに引張っても簡単には動かない。

と神さんを一生懸命に拝んでいたら、思いがかなったのだらうか、神さんが枕神に立たれ「伐られる鋸(のこぎり)もコケラも、その場で火に焚いて、みんな灰にするじゃ。そうしたら伐ることができると言われた。

「それじゃあ」と、そ

こで大きな火を柳さんの嫁さんが焚く。この柳さんの嫁さんもあの嫁さんも、みんな大きな火を焚いて、鋸(のこぎり)もコケラも焼いてしまっ、あくる日そこへ行ってみたら、昨日、柳を伐っただけ伐

で、「これで伐れるぞ」とみんなは喜び、柳を伐

「それじゃあ」と、そ

こで大きな火を柳さんの嫁さんが焚く。この柳さんの嫁さんもあの嫁さんも、みんな大きな火を焚いて、鋸(のこぎり)もコケラも焼いてしまっ、あくる日そこへ行ってみたら、昨日、柳を伐っただけ伐

で、「これで伐れるぞ」とみんなは喜び、柳を伐

「それじゃあ」と、そ

こで大きな火を柳さんの嫁さんが焚く。この柳さんの嫁さんもあの嫁さんも、みんな大きな火を焚いて、鋸(のこぎり)もコケラも焼いてしまっ、あくる日そこへ行ってみたら、昨日、柳を伐っただけ伐

で、「これで伐れるぞ」とみんなは喜び、柳を伐

「それじゃあ」と、そ

こで大きな火を柳さんの嫁さんが焚く。この柳さんの嫁さんもあの嫁さんも、みんな大きな火を焚いて、鋸(のこぎり)もコケラも焼いてしまっ、あくる日そこへ行ってみたら、昨日、柳を伐っただけ伐

で、「これで伐れるぞ」とみんなは喜び、柳を伐

「それじゃあ」と、そ

こで大きな火を柳さんの嫁さんが焚く。この柳さんの嫁さんもあの嫁さんも、みんな大きな火を焚いて、鋸(のこぎり)もコケラも焼いてしまっ、あくる日そこへ行ってみたら、昨日、柳を伐っただけ伐

で、「これで伐れるぞ」とみんなは喜び、柳を伐

「それじゃあ」と、そ

こで大きな火を柳さんの嫁さんが焚く。この柳さんの嫁さんもあの嫁さんも、みんな大きな火を焚いて、鋸(のこぎり)もコケラも焼いてしまっ、あくる日そこへ行ってみたら、昨日、柳を伐っただけ伐

で、「これで伐れるぞ」とみんなは喜び、柳を伐

「それじゃあ」と、そ

こで大きな火を柳さんの嫁さんが焚く。この柳さんの嫁さんもあの嫁さんも、みんな大きな火を焚いて、鋸(のこぎり)もコケラも焼いてしまっ、あくる日そこへ行ってみたら、昨日、柳を伐っただけ伐

で、「これで伐れるぞ」とみんなは喜び、柳を伐

「それじゃあ」と、そ

解説

関敬吾『日本昔話大成』では、本格昔話の「新話型16・大木の秘密」にその戸籍がある。

(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)